あの日あの時から、早いもので約140日が過ぎようとしています。「平成23年3月11日14時46分」。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。その時私は市長室で、退任あいさつにお越しになった、佐藤前白石警察署長と一緒でした。今思うと、地震発生時の基本として逃げ道を確保しようとベランダへ通じる戸を開けたものの、なすすべもなく、ただただ早く収まることを願いながら部屋の中に立っていました。室内にあるものは倒れ、建物のひずむ不気味な音などが庁舎内に響き、本当に怖かったことを昨日のように覚えています。

本震が14時46分、北緯38度0分・東経142度54分、深さ10キロ最大震度7でした。その後15時06分は、北緯38度0分・東経142度54分、深さ10キロ、最大震度5弱。この2つが三陸沖。15時15分は、北緯36度0分・東経141度12分、茨城県沖最大震度6弱…と余震が続きました。15時26分三陸沖、15時41分岩手県沖、15時46分宮城県沖、15時49分岩手県沖、15時57分茨城県沖、16時04分岩手県沖、16時15分福島県沖…と、宮城県沖だったり、岩手県沖、福島県沖だったりと、代わる代わるに震源地を変えながら余震が続きました。

自然災害や気象状況などの情報が携帯電話へメールで届くよう登録していましたが、それによると県内震度1以上の地震は、6月30日現在、宮城県沖・三陸沖・宮城県中部で339回。福島県沖・浜通り・中通りで275回。岩手県沖で101回。茨城県沖で105回。その他の震源地を加えると、858回という有感地震を数えています。時がたつにつれて震度は小さく回数も減ってきていますが、「もうたくさん！」というのが偽らざる気持ちです。

これを払しょくするには、気持ちの切り替えと復興しかないと思っています。姉妹・友好都市の皆さん、山崎バニラさんや白石戦國武将隊「奥州片倉組」、アニメ『戦国BASARA』で片倉小十郎役の声優の森川智之さんや伊達政宗役の中井和哉さんなど、白石に縁ある方々が白石の一日も早い復興を願い、祈り、期待し、日本各地から現在も応援し続けてくれています。それに応えていくのは私たち市民一人一人「自身」です。「今自分自身が何をしなければならないか」「復興を成し遂げるには何をすべきか」を自らに問い掛け、「自信」を持って行動してください。市民一丸となりこの難局を乗り越えていきましょう。白石市民にはそれができると私は信じています。

まず、市民の先頭に立ち、復旧・復興に全精力を傾けます。さらに、元気ある白石をPRし、経済活動を活発にさせていきます。それと同時に、東日本大震災で経験したことを活かすために防災計画を見直し、安全安心を享受できるように努めます。そのためにも、市民の皆さんの「気付き」や「意見」が重要となります。みんなで、災害に負けない「つよい白石」を創っていきましょう。

「がんばっぺ 白石」

風間市長の 風のささやき 「じしん」

応募方法 1人俳句3句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1白石市総務課へ。**はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。** 毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

市民文芸

歌壇

岩崎聰之介 選

国道の傍に吹かるる観音様はげしき地震にも凛と立ちます　八嶋 正子

春なくていつの間にやら初夏となるがれきに見ゆる矢車の花　後藤今朝雄

食細くなりたる姑は好物の初物南瓜に食欲を見す　鈴木 茂子

戦中のこわさ再びあるがごと余震に怯ゆる夜が明けゆく　荒木喜代子

冷やめしと少しのおかず分け合いて停電の夜の話は尽きず　佐藤 啓子

ろうそくの下で早めの晩ごはん冷凍食品揚げ物並び　遠藤 行夫

軒先に親子雀の雨やどり早くやんでといつか手合わす　鎌田ねい子

生かされて米寿ほどなき昨日今日だれにともなくありがとう言う　髙子たちばあ

分校は淡きみどりに包まれて葉陰にひそと金次郎の像　石田みどり

巨大なる波にのまれし故郷をみるにつけ辛し被災者を思う　佐藤キワ子

評 一首目、「立ちます」のますは尊敬語。結句に思いをこめる。

二首目、震災で春の実感もなく過ごしてきた今、供華の一つかみともなるであろうか、その花を詠う。

三首目、第二句のなりたるに時の経過がうかがわれる。姑さまを思う食のうた。

俳壇

遠藤秋尾 選

学校の傘立てあふれ梅雨に入る　岩松 隆志

戸を揺らす涼風にさえ身構えし　佐藤 啓子

気温差に戸惑ふ朝や走り梅雨　岩澤 伍峯

萬緑や不忘を指呼に虚子の句碑　髙子たちばあ

阿武隈の山脈遠く夏のいろ　制野 リエ

水無月や川風やさし蔵の街　寺崎 悦子

梅雨じめりする方丈の太柱　斎藤 典子

挿し木せるバラに命の芽生えけり　阿部はぎの

夏山の蔭日向あるいきいきと　跡部 祐子

汗流し山のぼりきし心地よさ　遠藤 忠臣

評 一句目、学校の傘立ては各クラスの廊下などにあるようだ。梅雨に入り満杯になった傘立て。生徒たちの元気な声が聞こえる。

二句目、未曾有の大地震に続く余震の恐ろしさ。風に揺れる戸に「さては」と身構える作者である。

三句目、昨日までの暑さはどこへやら。着るもの、網戸などの開閉に戸惑う、梅雨めく日を一句に。夏本番となりました。暑さに負けないように頑張りましょう。

柳壇

四竈英夫 選

相槌をうまく合わせる酒の席　草野 清

長生きの手相信じて医者通い　佐藤 啓子

頑張れと言わず寄り添うボランティア　斎藤 典子

地震後に知った電気の有り難さ　大庭 良子

贅沢をし過ぎたツケがどんと来た　阿部みさ子

何もかも緑の風がつつみゆく　寺崎 悦子

ホトトギス声なき過疎の声を聞く　石田みどり

子らたちの話解せぬ齢となり　髙子たちばあ

頭ならいつも私はクールビス　木村 貞雄

また来てね笑顔優しい看護人　佐久間とみ子

評 一句目、相槌を打つタイミングは難しい。肯定だけでも、否定だけでも話は続かない。硬軟織りまぜた話術の妙がポイントか。

二句目、手相には生命線、愛情線など様々。生命線の長さと寿命の長さが比例することを信じたい。信じる者は救われる。

三句目、「頑張れ」と言われるが何を頑張れば良いか分からない。悲痛な声が聞こえる。頑張らなくてもいい。みんなが仲間なんだ。

平成22年度市民文芸年度賞が決定しました

受賞された皆さま、おめでとうございます。 (敬称略)

【歌壇の部】

雨あがりゆらゆら日傘のねむの花　遠藤 舜

越して咲く（10月号）

「雨だろか」バチバチメットを打つ音が　村上英俊

春を感じる（7月号）

初めてのおのこの孫を抱く時はるかなる祖におもいを馳する（5月号）　鈴木久美子

はれやかに町ふくらませ山車のくる　岩松隆志

（7月号）

貨車逐し木犀の香をさらい行く　制野りエ

（11月号）

八十路とて生きる希望の種を蒔く　阿部はぎの

（5月号）

写経して三途の川の手形とす　阿部みさ子

（5月号）

褒め言葉嫁働かす良い姑　石田みどり

（1月号）

子が育ちひとりふたりと減る家族　平間大恵

（8月号）

【俳壇の部】

「雨だろか」バチバチメットを打つ音が　村上英俊

春を感じる（7月号）

初めてのおのこの孫を抱く時はるかなる祖におもいを馳する（5月号）　鈴木久美子

はれやかに町ふくらませ山車のくる　岩松隆志

（7月号）

貨車逐し木犀の香をさらい行く　制野りエ

（11月号）

八十路とて生きる希望の種を蒔く　阿部はぎの

（5月号）

写経して三途の川の手形とす　阿部みさ子

（5月号）

褒め言葉嫁働かす良い姑　石田みどり

（1月号）

子が育ちひとりふたりと減る家族　平間大恵

（8月号）

【柳壇の部】

雨あがりゆらゆら日傘のねむの花まぶしくわれの丈　遠藤 舜

越して咲く（10月号）

「雨だろか」バチバチメットを打つ音が　村上英俊

春を感じる（7月号）

初めてのおのこの孫を抱く時はるかなる祖におもいを馳する（5月号）　鈴木久美子

はれやかに町ふくらませ山車のくる　岩松隆志

（7月号）

貨車逐し木犀の香をさらい行く　制野りエ

（11月号）

八十路とて生きる希望の種を蒔く　阿部はぎの

（5月号）

写経して三途の川の手形とす　阿部みさ子

（5月号）

褒め言葉嫁働かす良い姑　石田みどり

（1月号）

子が育ちひとりふたりと減る家族　平間大恵

（8月号）

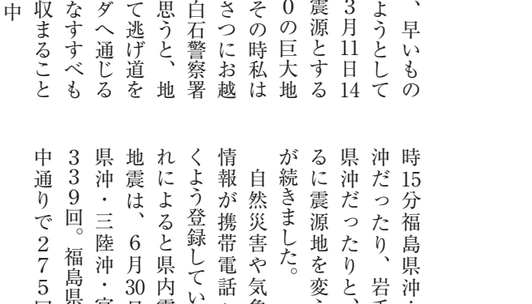
まちの話題 ～あの日、あの時～

音楽を通して白石に笑顔を！ 心に花を！
災害支援チャリティーコンサート

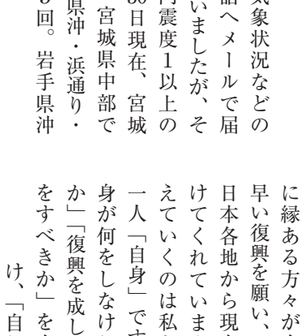
6月19日、小原孝さん・寺久保エレナさん・塩田美奈子さんによる「災害支援チャリティーコンサート」をしんきんホールで開催し、約150人の観客がピアノやサックスの音色、塩田さんの透き通るソプラノの声を楽しみました。白石市と(財)白石市文化体育振興財団が主催、仙南信用金庫が共催したこのコンサート。ホワイトキューブで定期的に演奏をしている3人が「音楽を通して被災地へ笑顔を届けたい」と、入場無料で企画しました。

コンサートは、寺久保さんのエネルギーに満ちたジャズに始まり、小原さんのピアノはクラシックから歌謡曲まで幅広い音色を奏で、塩田さんの歌声は心に響き渡り観客を魅了。塩田さんは「心安らかな日が一日でも早く戻ることを願っています」と話しました。

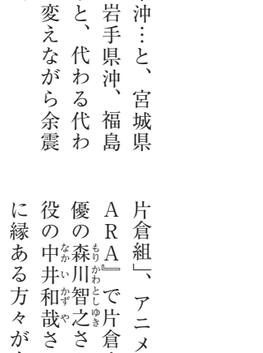
また、この日は会場に募金箱を設置。集まった義援金110,500円は日本赤十字社を通して被災地に寄付されました。



1



2



3

1_幅広いジャンルの曲で観客を楽しませた小原さん　2_塩田さんの歌声は観客を魅了　3_聞く人を元気にさせた寺久保さんのサックス